

第 90 期株主通信

2015.4.1 ▶ 2016.3.31

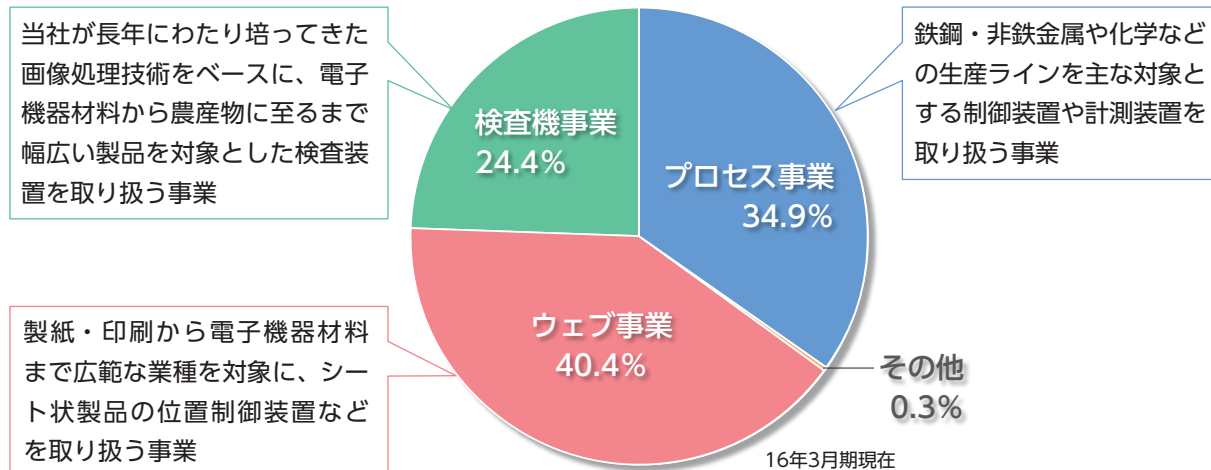


証券コード：6863

制御・検査装置のパイオニア

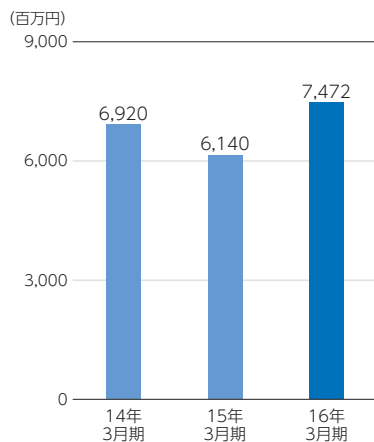
ニレコは「技術と信頼」の理念の下、様々な分野で貢献してまいります。

売上構成

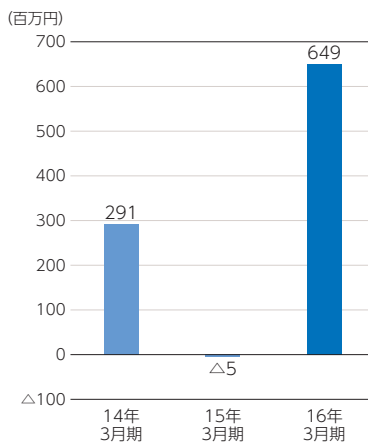


業績ハイライト

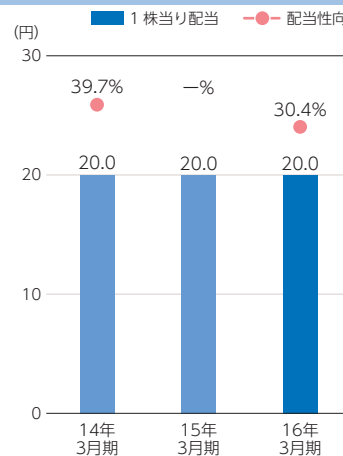
売上高



営業利益



1株当たり配当・配当性向





代表取締役社長

久保田 寿治

中期3ヵ年計画の初年度、
全セグメントにおいて
大幅な増収増益となり、
当初計画を上回る結果となりました。
配当金は昨年度に引き続き、
年間で20円とさせていただきます。

● 当期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年3月31日をもって終了しました第90期の業績をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、中国経済の減速や原油価格の下落などを背景に世界経済の先行きに不透明感が広がる中、企業業績の改善が続く一方で個人消費の回復力は弱く、総じて力強さに欠ける状況で推移しました。

当社グループの主要取引先であります鉄鋼業、化学工業、印刷業、紙加工業、電子部材メーカーなどの設備投資に向けた動きも業績改善に伴い広がりを見せたものの、当期末半においては不透明な景気動向を見据えて一部慎重な動きとなりました。

このような情勢の下、当社グループは、付加価値の高い製品・サービスの提供を強化するとともに、全社的なコスト削減に努めてまいりました。その結果、全セグメントで売上高、セグメント利益ともに前年同期を大きく上回り、売上高7,472百万円（前期比+21.7%）、営業利益649百万円（前期は営業損失5百万円）、経常利益686百万円（前期は経常利益66百万円）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は476百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益9百万円）となりました。

なお、期末配当金につきましては、1株あたり10円とさせていただきます。中間配当金と合わせ、20円となります。

● 次期の見通しについて

次期の見通しといたしましては、中国経済の減速懸念や原油価格の動向などを背景に世界経済の先行き不透明感は一層強まっており、わが国経済においても、為替変動に伴う企業業績の減速や個人消費の低迷などによる景気への影響が懸念され、設備投資の動向につきましても引き続き予断を許さない状況が続くものと想定しております。

このような状況において、当社グループは、引き続きいかなる環境下においても成長できる経営の実現を目指し、顧客から信頼される良きパートナーとなるべく、付加価値の高い製品・サービスの提供により顧客の抱える課題を解決するソリューション型ビジネスモデルへの変革に取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

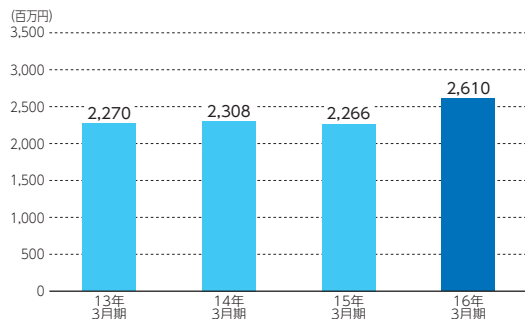
2017年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	金額	前期比
売上高	7,500	+0.4%
営業利益	650	+0.1%
経常利益	680	△0.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	450	△5.5%

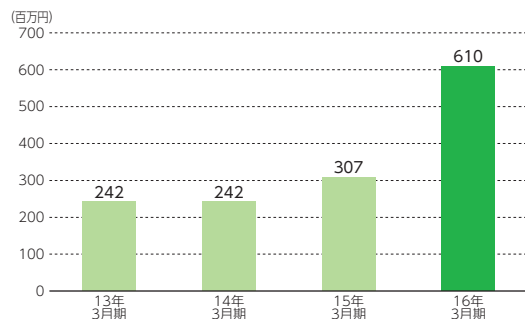
プロセス事業

■ 売上高 2,610百万円



+15.2%

■ セグメント利益 610百万円



+98.9%

当事業の主要取引先であります鉄鋼業界は、世界的に鋼材需給バランスの悪化が進み、鉄鋼メーカーの設備投資動向に影響を及ぼしました。このような状況の下、当社グループは、国内鉄鋼メーカーに対し、生産継続に欠かせない老朽設備の修理・更新、部品販売といったメンテナンス需要の取り込みに注力するとともに、鉄鋼製品の品質と生産効率向上につながる製品群の積極的な提案に努めました。また、海外鉄鋼メーカーに対しては、国内において培った信頼と実績をアピールし、アジアを中心とした新規顧客の獲得に注力しました。

その結果、当事業の売上高は2,610百万円（前期比+15.2%）、セグメント利益は610百万円（前期比+98.9%）となりました。

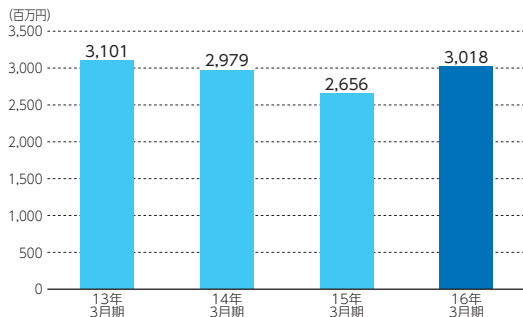
次期の展望

当事業の主要取引先であります鉄鋼業界は、世界的な鋼材需給バランス改善の目処が立たず、その設備投資は限られたものになると想定されます。このような状況の下、当社グループは、国内メーカーについては、引き続き老朽設備の修理・更新のみならず、品質と生

産効率向上に貢献する製品群を積極的に提案することで潜在ニーズを捉えて受注の拡大を図ります。また、海外メーカーについては、主にアジアを中心とした現地サービス網を確立するとともに国内において培った信頼と実績を背景に新規顧客開拓を進めます。

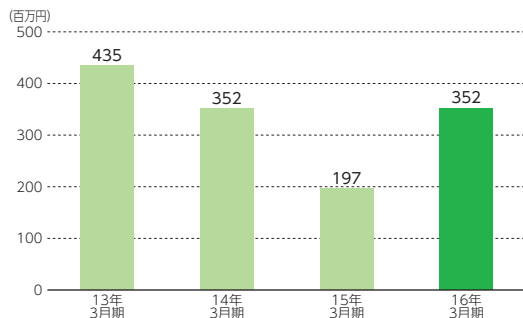
ウェブ事業

■ 売上高 3,018百万円



+13.6%

■ セグメント利益 352百万円



+78.0%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、フラットパネルディスプレイ向け電子部材関連設備投資を中心に、当期前半は堅調であったものの、後半は徐々に慎重な傾向となりました。もう一方の主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場の縮小に伴い設備投資も厳しい傾向が続きました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界並びに印刷業界の中でも需要の安定した軟包装や特殊印刷市場に向け、耳端位置制御装置や張力制御装置を中心に積極的な営業活動を展開しました。その結果、当事業の売上高は3,018百万円（前期比+13.6%）、セグメント利益は352百万円（前期比+78.0%）となりました。

次期の展望

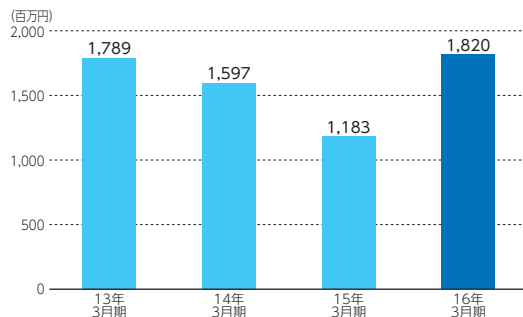
当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、フラットパネルディスプレイ向けを中心とした設備投資は引き続き抑制傾向が続くものと想定しております。また、印刷業界は商業印刷市場が引き続き厳しい状況で推移するものと想定しております。このよう

な状況の下、当社グループは、既存製品のコストダウンによる競争力向上並びに印刷絵柄を基準に位置制御を行う新製品の本格投入による食品向け軟包装市場の開拓を進めます。

検査機事業

■ 売上高

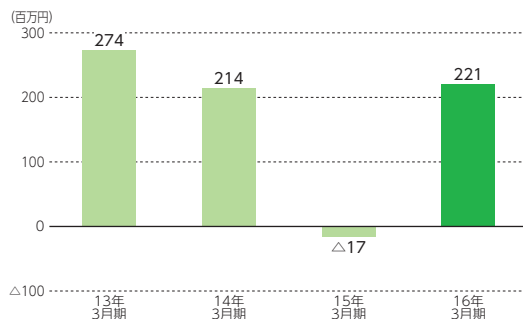
1,820百万円



+53.8%

■ セグメント利益

221百万円



当事業の主要製品であります無地検査装置は、多様な品質検査ニーズへの対応と対象市場の拡大を狙い製品ラインナップを拡充した結果、フラットパネルディスプレイや二次電池等の電子部材関連設備投資を中心に受注を獲得し、前年同期の売上高を上回りました。

もう一つの主要製品であります選果装置は、老朽設備の更新を求める顧客からの受注を着実に捉え、前年同期の売上高を大幅に上回りました。

その結果、当事業の売上高は1,820百万円（前期比+53.8%）、セグメント利益は221百万円（前年同期はセグメント損失17百万円）となりました。

次期の展望

当事業の主要製品であります無地検査装置は、フラットパネルディスプレイや二次電池等の電子部材関連設備投資を主要な対象に、豊富なラインナップときめ細かいアフターサービスによりシェアの拡大を図ります。

もう一つの主要製品であります選果装置は、国内においては老朽設備の更新需要を着実に捉えていくとともに、

海外においては実績を背景とした認知度向上により受注獲得を進めます。また、食品品質検査市場の開拓に向けて検査技術を応用した新製品を投入します。

ウェブ事業～デザインポジションコントロールシステム～

ウェブ事業の主力製品である耳端位置制御装置の新製品として、新たな制御方式を採用したデザインポジションコントロールシステム（NIP100、NIC100）の販売を開始いたしました。この製品は、ウェブ（紙、フィルムなどのシート状のもの）の蛇行を制御するにあたり、従来のエッジやスリットラインを連続的に検出して制御する方式に加え、カメラで撮影した絵柄や文字等を基準に制御を行うことも可能とした製品です。従来品よりも画像処理速度を大幅に速め、これまでは困難であったロール面上でのエッジ検出という問題を解決し、また、新たな制御方式の開発に成功したことにより、従来品では対応できなかった様々な環境、条件下においても高精度で安定した制御が可能となりました。現在、食品包装等の軟包材製造メーカーを中心に大変好評いただいております。

なお、この製品は、印刷絵柄を基準に制御を行うという新たな制御方式を採用した製品の第1弾です。今後は、制御だけでなく計測や検査といった様々な分野への技術の応用に挑戦していくことで、お客様の生産性向上及び品質の改善に貢献してまいります。

デザインポジションコントロールシステムの基本構成例

NIP100
ニレコインテリジェントパネル

蛇行の検出

コントローラー

エッジ検出



ロール面上での
エッジ検出が可能に！



蛇行の
修正指示

蛇行の修正

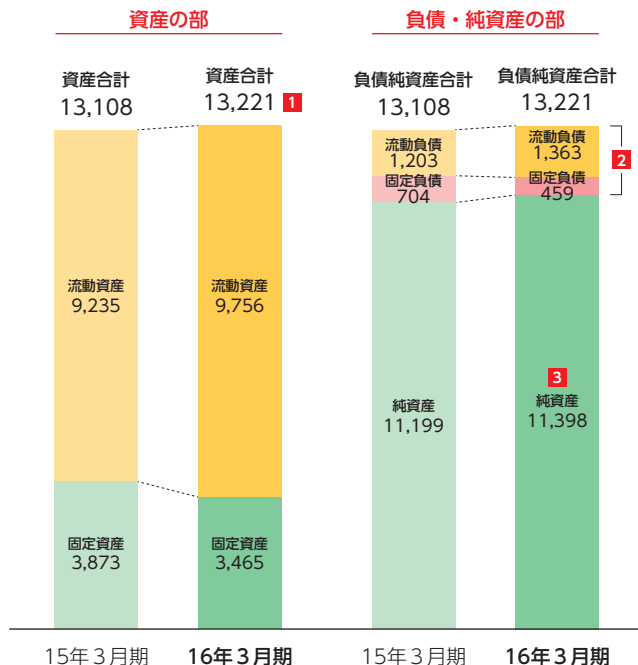


アクチュエーター

NIC100
ニレコインテリジェントカメラ

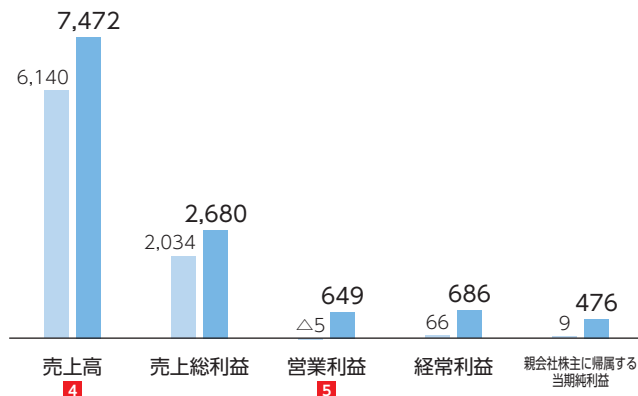
連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)

■ 15年3月期 ■ 16年3月期



Check Point

1 資産

13,221百万円 (前期比+113百万円)

当社新社屋建設に関する建設仮勘定の減少1,071百万円などがあったものの、当社新社屋建設に関する建物の増加985百万円、現金及び預金の増加254百万円、受取手形及び売掛金の増加189百万円などにより、13,221百万円となりました。

2 負債

1,823百万円 (前期比△84百万円)

未払法人税等の増加148百万円、未払費用の増加66百万円などがあったものの、長期借入金の減少151百万円、未払金の減少82百万円などにより、1,823百万円となりました。

3 純資産

11,398百万円 (前期比+198百万円)

その他有価証券評価差額金の減少79百万円、退職給付に係る調整累計額の減少65百万円などがあったものの、利益剰余金の増加327百万円などにより、11,398百万円となりました。

4 売上高

7,472百万円 (前期比+1,331百万円)

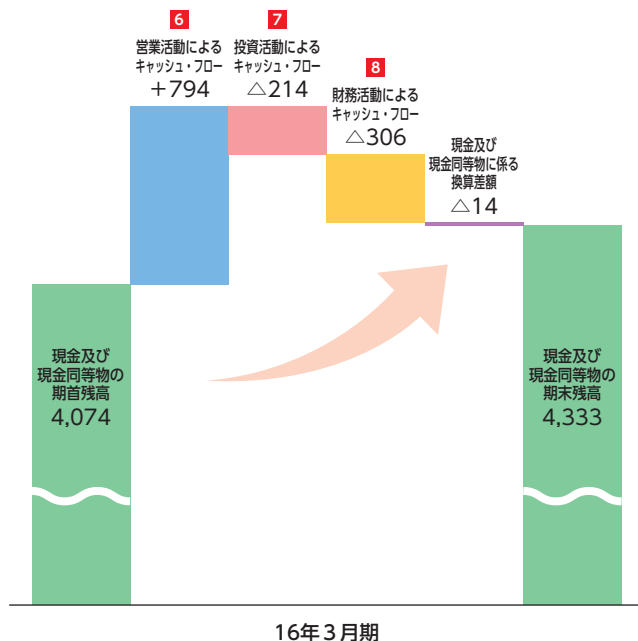
全セグメントにおいて増収となり、7,472百万円となりました。

5 営業利益

649百万円 (前期は営業損失5百万円)

増収を主因に付加価値の高い製品・サービスの提供の強化とともに、全社的なコスト削減努力により、649百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



Check Point

6 営業活動によるキャッシュ・フロー

794百万円 (前期比+694百万円)

売上債権の増加195百万円、たな卸資産の増加139百万円などがあったものの、税金等調整前当期純利益686百万円、減価償却費200百万円などにより、+794百万円となりました。

7 投資活動によるキャッシュ・フロー

△214百万円 (前期比+691百万円)

定期預金の払戻による収入335百万円、投資有価証券の売却による収入37百万円などがあったものの、当社新社屋建設に関するものを主な理由とした固定資産の取得による支出211百万円、定期預金の預入による支出335百万円などにより、△214百万円となりました。

8 財務活動によるキャッシュ・フロー

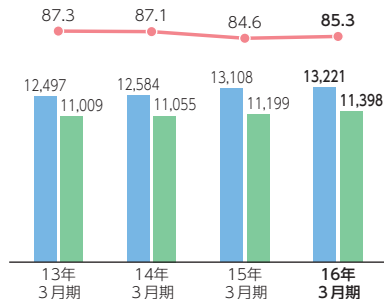
△306百万円 (前期は210百万円の収入)

自己株式の売却による収入34百万円があったものの、当社新社屋建設に関する資金調達を主な理由とした長期借入金の返済による支出151百万円、配当金の支払147百万円などにより、△306百万円となりました。

純資産、総資産及び自己資本比率

(単位：百万円、%)

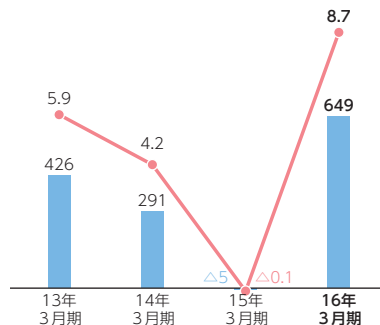
■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率



営業利益、営業利益率

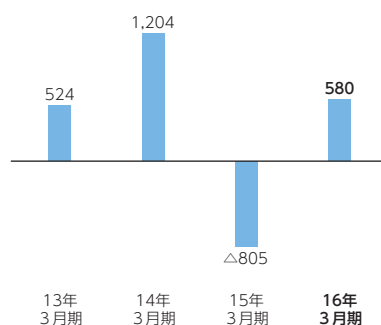
(単位：百万円、%)

■ 営業利益 ● 営業利益率



フリー・キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



監査等委員会設置会社への移行

当社は、6月28日開催の第90回定時株主総会の決議を受け、監査等委員会設置会社に移行いたしました。

監査等委員会設置会社では、監査業務を担う監査等委員が取締役会における議決権を保持していること、また、業務執行取締役の選解任や報酬等についての株主総会における意見陳述権を保持していること等により、業務執行に関する監査・監督機能の一層の強化を図ることができます。

また、社外取締役の増員に伴い、経営の透明性、効率性の更なる向上を図っていくことで、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を実現し、企業価値の向上を図ってまいります。

【ニレコの目指す姿】

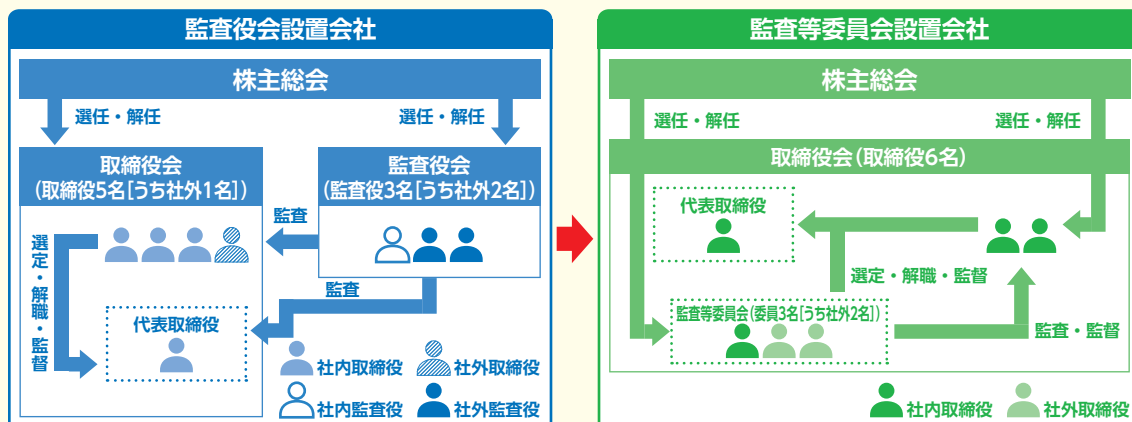
● 監査等委員の過半数を社外取締役で構成

● 違法性監査に加え妥当性監査も実施

- ・ 透明性、客観性の向上
- ・ コーポレート・ガバナンスの強化

積極果敢な経営判断

企業価値
の向上



株式の状況

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

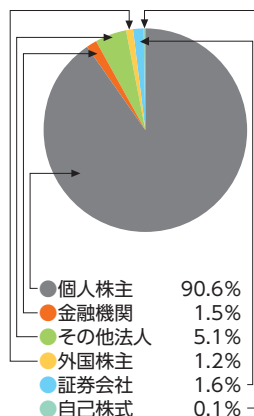
発行可能株式数： 39,400,000株
 発行済株式の総数： 9,205,249株
 株主数： 1,025名
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.7
ニレコ取引先持株会	513	6.9
極東貿易株式会社	469	6.4
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	302	4.1
浅井美博	238	3.2
住友金属鉱山株式会社	231	3.1
ニレコ従業員持株会	207	2.8
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	194	2.6
株式会社みずほ銀行	182	2.5

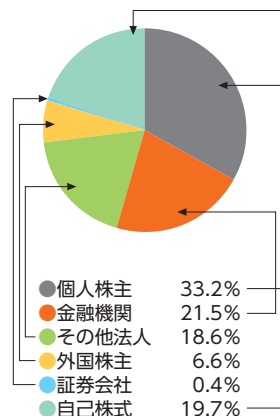
(注) 上記以外に、当社は自己株式1,813,675株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

●株主数



●保有株式数



会社情報

会社の概要 (平成28年3月31日現在)

商号：株式会社ニレコ
 英文商号：NIRECO CORPORATION
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4
 設立：昭和25年11月
 資本金：3,072百万円

役員 (平成28年6月28日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長	久保田 寿 治	CEO
取締役 ※1	河 西 辰 雄	W&I営業部門長
取締役 ※1	碓 光 司	管理部門長
取締役監査等委員	田 邊 寛 一 郎	
取締役監査等委員 ※2	中 野 厚 徳	
取締役監査等委員 ※2	橋 本 光 男	

※1 執行役員を兼任しております。
 ※2 会社法に定める社外取締役です。

執行役員

藤原 利之 尼利可自動控制机器 (上海) 有限公司董事長兼仁力克股份有限公司董事長
 小林 正明 W&I開発部門長
 三浦 誠 プロセス事業部長
 大澤 祐二 W&I技術部門長

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期 6月下旬
定時株主総会議決権行使株主確定日 3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
法定公告は次のURLに掲載しております。

<http://www.nireco.jp/ir/notice/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
○同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
○郵便物送付及び電話照会先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6863**

 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社 a2media (エーツーメディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

ホームページのご案内

<http://www.nireco.jp>

トップページ



IRページ



最新ニュースをはじめ業績報告や会社情報などを詳しくご案内しております。

株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4
電話 042-642-3111 (代表)

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

